

3 園・学校に実施したヒアリング内容

業務の負担・負担感について

5年前、10年前と比較して業務負担・負担感は増している。理由として、下記の業務が挙げられる。

- 保護者からの相談への対応や生徒指導
- アレルギー対応
- 調査・報告業務の増加
- 対外的な調整や事業の増加 など

勤務時間・校務の進捗状況の把握方法

教頭が職員とのコミュニケーションで把握することが多いが、オリジナルの退勤時刻入力シートを作成している学校もある。

週休日の振替や休憩時間に係る制度改正の周知と有効活用

積極的に活用している場合もあるが、周知されているのみで形骸化していることもある。

修学旅行等の勤務時間の割振り変更制度の活用

主に、修学旅行・宿泊学習など旅行的行事に活用している。運動会・陸上競技会などその他の行事に活用する場合は、その分の負担が他の職員にかかる。

定時退勤日の設定について

■設定している

業務の状況により一斉に実施することは困難なときもあるが、呼びかけを行い、退勤を促している。

■設定していない

各職員の担当業務により進捗状況が異なるために、定時退勤日等は設定していないが、積極的に退勤を促すことは心がけている。

新たな外部人材導入の希望について

■ I C T 支援員

■ 専科教員

■ 教育ボランティア（水泳、スキー、英語等）

■ 実験補助

学校が独自に行っている負担軽減の取組

■会議に関すること

実施する月あるいは時期を定めることで回数を縮減することやペーパーレス化による効率化を進める。

■校務支援システムに関すること

掲示板や回覧板を利用することにより、朝会を撤廃する。

■一斉退勤日等の設定

一斉退勤日や退勤時刻を設定し、帰宅を促す。また、一律の設定が困難な場合は、個々の状況に応じて帰宅を促すこととしている。